

# 教育センター

センター長 福島 統

センター長・室長・教授	福島 統	医学教育学（教育開発室）
兼任・室長・教授	木村 直史 (薬理学)	医学教育学（医学教育研究室）
専任・副室長・教授	伊坪真理子 (内科学(消化器・肝臓))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	川村 哲也 (内科学(腎臓・高血圧))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	尾上 尚志 (脳神経外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	古谷 伸之 (内科学(総合診療部))	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・講師	石橋 由朗 (外科学)	医学教育学（医学教育研究室）
兼任・准教授	鷹橋 浩幸 (病理学)	医学教育学（医学教育研究室）
専任・准教授	中村真理子	医学教育学（教育開発室）
兼任・准教授	松島 雅人 (内科学(総合診療部))	医学教育学（教育開発室）
専任・准教授	柵山 年和 (臨床腫瘍部)	医学教育学（教育開発室）
兼任・室長・准教授	平尾真智子 (看護学科)	看護教育学（看護教育研究室）

## 教育・研究概要

平成 11 年 4 月に教学委員長を室長に医学教育研究室が学事部学務課内に設置され、平成 14 年 4 月には初年次教育の拡充のために、国領校に医学教育研究室国領分室が設置された。平成 17 年 10 月に教育センターが設置され、その中に医学教育研究室(木村直史室長)、看護教育研究室(平尾真智子室長)、卒業教育支援室(宇都宮一典室長)、教育開発室(福島 統室長)が置かれ、平成 18 年 4 月には教育センター事務室が設置され、教育センターとして本格的な活動が開始された。福島 統が平成 19 年 4 月

に教育センター長に就任し、平成 22 年 4 月に再任された。教育センターは、平成 22 年 4 月に C 棟 7 階に移動し、シミュレーション教育施設および e-Learning 施設の管理運営も行っている。

## I. 平成 22 年度大学教育・学生支援推進事業（大学教育推進プログラム）「学生一人ひとりを育てる学習評価システム」

昨年度、大学教育推進プログラムに本学の取組が採択された。本取組は学内試験のコンピュータ試験化と学外実習でのフィードバックのポートフォリオ化による学生支援を目指すものである。本年度は、医学科の 2 年生、4 年生、5 年生の試験でコンピュータ試験を実施した。医学科、看護学科で試験問題作成のワークショップも開催した。学生支援に関してはフィードバックデータの集積及びその分析を行い、低学年でのフィードバックが学生の行動変容に繋がる可能性が示唆された。

## II. 平成 23 年度文部科学省先導的の大学改革推進事業「医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究」

医学教育プログラムの質保証制度についての調査研究を委託された。英国キングス大学医学部、セント・ジョージ医科大学そして General Medical Council (GMC) への訪問調査を行い、英国での医学教育での分野別質保証制度について班会議で報告した。英国では各医学部が、Tomorrow's Doctors (GMC が決めた卒前医学教育の目標) を参考に、医学教育でのアウトカムについて自己点検評価書を作成する。この自己点検評価書をもとに、外部評価チーム (7~8 名) が GMC により組織され、1 年間で 7~8 日程度の訪問視察を行い、外部評価書を作成する。各医学部はこの外部評価書に書かれている改善点について、改善計画書を GMC に提出し、さらに毎年、この改善の進捗状況を報告することで医学教育プログラムの認証が行われていた。なお、自己点検評価書、外部評価書、改善計画書、毎年の改善報告書はインターネットを通じて公開されている。

### Ⅲ. 平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（高臨床研究事業）「がん患者の QOL につながる在宅医療推進に向けた、総合的がん専門医療職のがん治療認定医、がん専門薬剤師と協働するナース・プラクティショナーに関する研究（研究代表者 森美智子）」

本年度は、癌治療学会、プライマリケア連合学会、臨床研修指導医講習会プログラム責任者の医師を対象に、ナース・プラクティショナーにどのような役割、能力を求めるのかのアンケート調査を行った。癌専門医とプライマリケア医での相違を調べることが目的である。

### Ⅳ. 平成 21 年度文部科学省科学研究費補助金「日本の近代医学教育の独自性について歴史的視点からの研究（研究代表者 坂井建雄）」

本年度が補助最終年度である。本研究の中で、「戦後における医学教育制度改革」を担当し、その成果を分担執筆者として出版した。昭和 20 年の医学部入学者は 1 万人を超えていたが、連合国の占領政策により医学部定員は 2,800 人までに削減された。この間、医専の統廃合、医師国家試験、インターン制度の導入が行われた。医学教育基準（大学基準協会）から医学部設置基準（文部省）、そして設置基準の大綱化という大きな制度変更でも医学教育はあまり変化しなかったが、平成 13 年のモデル・コア・カリキュラムの提示や共用試験の導入によりわが国の医学教育も大きく変化していった。現在、医学教育の国際認証の問題が持ち上がり、わが国の医学教育はさらなる変化を求められている。この歴史的経過について論じた。

### Ⅴ. チーム医療構築ワークショップ

青戸病院医療事故の改善策の一つとして始まった医療の安全教育ワークショップは平成 16 年 1 月から 5 年間、55 回開催、5 千人参加で終了し、平成 21 年 4 月からはチーム医療構築ワークショップとして形を変え継続している。今年度も附属病院 3 回、青戸病院 1 回、第三病院 2 回、柏病院 2 回の計 8 回実施した。

### Ⅵ. 地域医療者のための心音セミナー

本学学生が学外実習を行っている実習施設の看護師を対象に、心音セミナー 2 回、呼吸音セミナー 3 回、在宅人工呼吸器管理と救急処置 1 回、在宅緩和ケアとオピオイド 1 回を開催し、地域医療者への生涯学習コースを提供した。

### Ⅶ. 学外での医学教育関係講演

1. 琉球大学附属病院
2. 日本大学医学部光が丘病院
3. 厚生労働省認定柔道整復専科教員講習会
4. 和歌山県立医科大学
5. 昭和大学
6. 奈良県立医科大学
7. 兵庫医科大学
8. 埼玉医科大学
9. 福井大学医学部
10. 茨城県結城看護専門学校
11. 琉球大学医学部
12. 東海大学医学部
13. 徳島大学医学部
14. 国際医療福祉大学小田原保健医療学部
15. 厚生労働省認定理学療法士・作業療法士養成施設等教員講習会
16. 全国柔道整復学校協会
17. 大東文化大学法科大学院
18. 岩手医科大学歯学部

### 「点検・評価」

平成 22 年 4 月に C 棟 7 階にシミュレーション教育施設が移動し、それに伴い施設管理を行う教育センターも移動した。教育センター内に e-Learning 支援部門も強化した。e-Learning の支援を要請する教員も医学科、看護学科ともに増えてきおり、IT 学習支援部署としての機能を果たしつつある。シミュレーション教育施設は学内 LAN から使用申請できるシステムで、卒前教育、研修医、看護部、救急蘇生のグループが積極的に利用しているだけでなく、地域医療者を対象としてスキル系の生涯学習にも使用され、今後も利用頻度が増してくると思われる。

平成 22 年度は文部科学省の教育補助金でのコンピュータ試験トライアルに失敗したが、今年度はシステムを改修し医学科 2 年生、4 年生そして 5 年生の試験をコンピュータで実施することができた。

文部科学省や厚生労働省からの補助金で行う事業が増えてきている。教育センターが医学教育の専門機関として学外からも認められている結果と考えられる。今後も、学内だけでなく学外、特に国からの要請には積極的に答えていくべきと考えている。

## 研究業績

### Ⅱ. 総説

- 1) 福島 統.【医療安全を推進する教育・研修】教育・

研修の具体的な取り組み事例 医療安全教育 東京慈恵会医科大学での取り組み(事故の振り返りなど). 医療の質・安全会誌 2011;6(3):371-3.

2) 柵山年和, 岡崎史子, 中村真理子, 小松一祐, 塩原憲治, 福島 統. 在宅医療をサポートするために大学ができること. 癌と化療 2011;38 (SupplI):29-33.

3) 福島 統. 実務実習(臨床実習)のための準備教育と実務実習での学習効果: 共用試験が目指すもの(臨床法学教育シンポジウム動き出した法曹養成と医師養成の連携: 臨床方法論による専門職教育の課題)(大学における実務教育の現状と課題). 臨床法学セミナー 2011;10:22-30.

### III. 学会発表

1) 福島 統. (シンポジウム: 戦後における医学教育制度改革) 我が国の医学教育の歴史をめぐって. 第112回日本医史学会総会・学術大会. 東京, 6月.

2) 福島 統, 高木 康. (シンポジウム: Inter Professional Education) シンポジウムのねらい. 第43回日本医学教育学会大会. 広島, 7月.

3) 福島 統. (パネルディスカッション: 医学教育における利益相反) 編集委員会・広報委員会の立場から. 第43回日本医学教育学会大会. 広島, 7月.

4) 福島 統. 岡嶋道夫先生のご紹介-第22号牛場賞受賞にあたり-. 第43回日本医学教育学会大会. 広島,

7月.

5) Fukushima O. (特別ワークショップ) Accreditation of Medical Education in Japan: Problems to be solved. 第43回日本医学教育学会大会. 広島, 7月.

6) 古谷伸之, 伊坪真理子, 岡崎史子, 福島 統. テュートリアル教育が12年間学生から最高評価を維持する要因. 第43回日本医学教育学会大会. 広島, 7月.

7) Ohshima N, Kinoshita M, Shigeta M, Inoue K, Nakamoto H, Fukushima O. Development of interprofessional collaboration aptitude test as evaluation tool. AMEE (An International Association for Medical Education) 2011. Vienna, Aug.

8) Fukushima O. Post-war historical development of medical education in Japan. Education of Health Professionals for 21st Century(Lancet Seminar). Tokyo, Aug.

9) 福島 統. 大学認証機関について. 平成23年度文部科学省先導的大学改革推進事業 医学・歯学教育の改善・充実に関する調査研究 医学チームシンポジウム「参加型臨床実習をめぐって」. 東京, 12月.

### IV. 著書

1) 福島 統. 第7章: 戦後における医学教育制度改革. 坂井健雄編. 日本医学教育史. 仙台: 東北大学出版会, 2012. p.213-45.